

自己評価・外部評価 評価表

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]									
(5) 安全管理の徹底									
①	サービスの特徴を踏 まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者 等の在宅生活の継続」と「心身の機 能の維持回復」を実現するため、事 業所独自の理念を掲げている	7	2			事業所の理念は法人理念・こぶし 園理念と共に事務所に掲示して いる。理念に基づき在宅生活が維 持できるよう、その人らしい生活、 その人のできることを継続できるよ うサポートした。	明確化されている。わかりやすい言葉での理念 だと思ふ。 会議等でも何っている。 理念に沿って在宅生活の維持とその人らしい 生活に向けてサポートされており素晴らしい。 掲げ意識することによって何か問題にあつた 時に理念を通して考えられると良い。
(2) 適正な人材の育成									
①	専門技術の向上のた めの取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの 特徴および事業所の理念につい て、その内容を十分に認識している	6	3			年1回の研修で確認して意識づけ している。理念に基づいたサービ スの提供を目指している。	これからも理念に基づいたサービスを提供して欲し い。 研修での意識づけについて実施方法を教えて頂き参 考にしたい。 職員一人一人が定期随時サービスの特徴や強みを 理解する事で利用者寄り添ったサービス提供に繋 がると思ふ。
		3	運営者は、専門技術(アセスメント、 随時対応時のオペレーターの判断 能力など)の向上のため、職員を育 成するための具体的な仕組みの構 築や、法人内外の研修を受ける機 会等を確保している	4	5			オペレーターの判断能力としては 日々の業務の中で培われており 随時管理者、サービス提供責任 者がアドバイスを行っている。また 更新や状態変化時のアセスメント や月1回のモニタリングを利用者 担当職員に行わせ、サービス提供 責任者が確認、助言を行い実地と して能力向上の機会としている。 職員育成の研修として月に1回リ モートでの内部研修等を行っている。	研修は幅広い内容で組まれていると 思ふ。 研修の結果モニタリング能力の向上 は見られるか。自事業所は職員間 の文章力の違いで苦労している。 管理者、サービス提供責任者だけ でなく全員で関わり意識、技術を向上さ せている。 専門技術の向上のために、定期的な アセスメントなどを指導する機会にす るなど工夫して取り組んでいる。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]									
(2) 適正な人材の育成									
①	専門技術の向上のための取り組み	4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している	4	5			専門的な技術において同行訪問によって学ぶ機会を作り、利用者によってヘルパーを固定せず、どのヘルパーが訪問しても同等のサービスが提供できるように努めている。	配慮されていると思う。どの職員が対応しても同一のサービスが提供できることが理想だと思う。職員の能力はそれぞれ異なるため、平均化とともに強み弱みを認めお互いが吸収し成長できる環境であると良いと感じる。ケアにより高度な専門技術の取得が必要になるかと思うが今後も誰でも同等のスキルが維持できるように努めて欲しい。
安全管理	介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	8	1			フェニックスネットワークを活用し訪問看護・ヘルパー、他に連携している多職種の申し送りを確認することができる。相談にも活用しアドバイスや指示がもらえる環境にある。	フェニックスネットワークを十分に活用されている。フェニックスネットワークの利用により正しく情報が共有され、対応も適切に行われていると思う。申し送りに対する確認は全職員が可能か。確認の時間の確保の方法を参考にしたい。
(3) 適切な組織体制の構築									
①	組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている	7	2			利用者の状況により柔軟に訪問回数や訪問日の変更の調整、それに係る職員の勤務の変更など柔軟に対応している。	個々に合わせた柔軟な対応をしていると思う。貴事業所でどうしても対応出来ない時には同法人内でフォローするのか。
②	介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている	4	5			介護・医療連携推進会議は年2回開催している。今年度から中間報告として書面での状況報告を行い更に美沢ヘルパーステーションの取り組みを理解していただく機会を持つ予定。ご意見や照会から頂いた助言はサービスの向上に反映できるよう努めている。	年の中間で振り返りが出来ると後半のサービス向上につながり良いと思う。中間報告が参考になった。可能な範囲で取り入れたい。コロナ禍で難しい状況だが工夫して運営し地域に還元して欲しい。書面での中間報告があると取り組み状況が分かりやすく良かった。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]									
(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備									
①	利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている	7	2			フェニックスネットで連携している事業所間で迅速な情報共有がなされている。またお互いにコメントを行い意見交換を行う事が出来る。急を要する場合や連携していない事業所へは電話連絡で対応している。	フェニックスネットを有効活用して迅速に対応していると思う。また正しく情報が共有され、対応も適切に行われていると思う。当日休みの職員が確認するために効率的な確認方法があるか。 タブレットでの情報収集が定着していると感じるが電話連絡が悪いとならずに臨機応変の対応を望む。ICTで間に合う内容はそれではないと思うが確認ボタンの徹底をするより分かりやすくなると思う。 今後は全ての事業所がフェニックスネットで連携出来る方が良い。
(5) 安全管理の徹底									
①	職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等)	5	4			準夜勤・深夜勤では防犯の為セコムと連携したコールボタンを携帯している。 交通安全目標を毎月掲げ無事故に努めている。 災害・感染症対応のマニュアルを整備し、BCPとして防災訓練、感染症の机上訓練を行っている。また災害時の訪問チェック用紙を作成し緊急連絡先・主治医・家族の連絡先・避難先等一覧で見られ、実際地震の際の安否訪問に活用した。今後は避難先への誘導等の情報をケアマネージャーや家族と話し合う必要がある。	BCP作成だけでなく、実際に訓練も行われており、しっかり体制が構築されている。 家族やケアマネージャーへの連絡方法について検討している事は素晴らしい。 災害時の対応は組織全体として繰り返し行う事が大切だと思います。避難等の情報は更新時の担当者会議での活用はどうか。 災害時の訪問一覧表の作成は誰がやるのか？保管場所はどこか？ ココセコムと連携したことで職員への安全管理配慮がなされている。利用者別に災害時の対応が明確。シミュレーションして課題があれば検討・改善を行って欲しい。
②	利用者等の個人情報の保護	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている	8	1			訪問時にはタブレットを携帯しているが暗証番号で個人情報の取り扱いには十分気を付けている。個人が特定される物は持ち出さず、預かり鍵やメモ等もイニシャルの頭文字のみになっている。メモは帰園時にはメモはシュレッダー、鍵の返却は毎日確認している。	十分に配慮していると思う。 高い評価であり十分気を付けられているものと思う。 個人情報保護について厳重に対策が講じられているようで安心。 自事業所でも改めて職員に周知したい。全員「出来ている」になる事が望ましい。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
II 過程評価(Process)									
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供									
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成									
①	利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている	4	5			利用者の生活リズムや、ADLやIADLの能力に着目してアセスメントを行い訪問介護計画書に活かし提案している。	きちんとアセスメントできている。記録により、利用者個々の生活をよく観察されていると感じる。状態変化時のカンファレンスは職員が集まってできているか。実施方法を知りたい。訪問回数が少ないと把握が難しいのか。
		12	介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている	6	3			毎月のモニタリングにて看護のアセスメントを確認しサービス内容の評価を行っている。情報はフェニックスネットで共有している為、現在のニーズとサービス内容が合っているか相互に確認できる。	共有できている。フェニックスネットで貴所のアセスメントモニタリングの内容が直に確認でき便利。評価についての情報の確認はほとんどの職員が出来るか。確認の意識づけの良い方法があれば教えて欲しい。看護のアセスメントが理解しにくいことはないでしょうか。意見もらえたらと思う。
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	13	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている	6	3			在宅生活を継続し、利用者が望む生活の維持のため心身機能の回復を目標とした自立支援を促す計画書の作成を心がけている。難しい場合は精神的な部分の働きかけで意欲を引き出せる様な声掛けを工夫している。	個々に合わせた自立支援はとても大変だが継続して欲しい。会議でも心がけている様子が感じられる。自立支援を促すことが自己評価についても上がっており定着してきているのかと思う。何を目標にしているかを共有する事はとても大切。利用者自身が自立する意識を持つことは重要。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
II 過程評価(Process)									
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供									
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成									
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないように、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている	1	8			先を見越した適切なリスク管理としてはヘルパー間で話し合い都度ケアマネージャーとも情報共有するようにしている。計画作成へ活かせる様努力したい。	関係機関と連携して計画作成に活かして欲しい。利用者の同意に基づいた未来志向型の計画作成が出来るとう良い。会議でも心がけている様子が感じられる。遠方のご家族のかたへの定期的な報告を行っているか。重度となった場合主治医や看護との連携をどう生かすかを考えるとと思うが依存性を高め過ぎないことの意味を全体で共有すること。
①	計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回・随時対応サービスの提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている	6	3			室温調整や予防接種後の体調確認での随時訪問や、外出の為の時間変更など利用者に合わせて必要に応じた柔軟な訪問を行っている。	訪問の調整が大変だと思いますが今後も柔軟な対応をお願いしたい。定期巡回随時対応型の強みが活かされている。
②	継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている	7	2			毎月のモニタリングにおいてケアマネージャーへ利用者の状態を伝え相互に情報共有を行い適宜話し合いを持つことで計画の見直しを図っている。	今後も継続して欲しい。モニタリングの内容や記載についてケアマネージャーから指摘を受けた事はあるか。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
II 過程評価(Process)									
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供									
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供									
①	介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を生かした役割分担が行われている	8	1			介護職では支援出来ない医療的な対応は看護職より行われている。	上手く連携が取れている。介護職の方々の利用者の日常生活の変化や気づきは看護にも大変参考になる。専門性を生かした連携支援が来ている。
②	看護職によるサービス提供に関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている	8	1			介護職では支援出来ない医療的な対応や医療の専門分野からの助言、介護からの相談等看護職より行われている。	気になった事などは積極的に意見を求めて欲しい。ベテランの介護職から看護の対応について意見や不満が出る事はあるか。専門性を生かした連携支援が来ている。
(4) 利用者等との情報及び意識の共有									
①	利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている	8	1			契約時にご本人、ご家族へ説明は行っている。訪問しても必要時には説明を行いサービスの趣旨内容の説明を行っている。	一度では伝わりづらいこともあるのでその都度説明する事も必要。特に介護保険に詳しくないご家族への理解には難しさを感じる。質問しやすい雰囲気づくりも必要。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
II 過程評価(Process)									
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供									
(4) 利用者等との情報及び意識の共有									
②	利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている	5	4			計画の趣旨、目標や内容を説明している。必要時には何度も説明し理解して頂く。	必要に応じて説明をして欲しい。専門用語をかみ砕いて説明する事も必要。質問しやすい雰囲気づくりも必要。
		21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	7	2			ご家族への報告はケアマネジャーを通じて行っている。サービスの変更については必要時ご家族を含めた話し合いを行っている。	ご家族との信頼関係が築けているとサービスの変更の話し合いもスムーズかと思う。日々の様子を細かく報告する様努めている。
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント									
(1) 共同ケアマネジメントの実践									
①	利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	7	2			フェニックスネットを通じて訪問毎の利用者の様子を情報共有している。連携していないケアマネジャーへはモニタリングや状態変化時、ヘルパーからの相談時に都度電話連絡で情報の共有を行っている。サービスの提供回数は担当者会議でご利用者、ケアマネジャーと共同で決定し変更時にも同様である。	情報共有されており、状態変化時は早急に対応している。ケアマネにより事業所に丸投げの場合もあるが、どう対応すればいいか？
		23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている	5	4			利用者の目標達成の為に必要時にケアマネジャーと支援内容に関して意見を出し合っている。インフォーマルサービスとして配食弁当以外にも活用できればと思っている。そのためには地域への積極的な広報活動の必要性を感じている。	広報活動はとても重要だと思う。地域との連携の難しさを痛感する。現場で肌で感じている事やインフォーマルサービスの活用等推進会議でも積極的にアピールすると良い。広報活動は積極的とは言えない。訪問時に近隣住民に挨拶する等日々の行動が理解を深めていると感じる。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
II 過程評価(Process)									
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント									
(1) 共同ケアマネジメントの実践									
②	定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている	5	3			担当者会議や会議の照会を通じて多職種への情報提供が行われている。	情報共有できていると思う。職員の情報収集の意識はどうか。訪問看護が入っていないケースについては月々のアセスメントの内容をふまえて情報提供していただければと思う。なかなか顔を合わせての会議が開催できない為、照会で伝えきるのは難しいと感じる。
①	利用者の在宅生活の継続に必要となる、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討	25	利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート(保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む)について、必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目)	1	3			受診や買い物の同行支援など利用者の生活をサポートするサービスを保険外サービスで行っている。また地域のインフォーマルサービスももっと積極的に取り入れられるようケアマネージャーへ働きかけていきたい。	ケアマネージャーからインフォーマルサービスの提案をされた事があるか。他職種が連携してスムーズにケアが行えるよう情報共有する事はとても有効だと思う。
		26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている(※任意評価項目)	3	2			状態の変化時にはサービスに切れ目がないようにするため、情報を共有し検討している。	定期以外で近くを通る職員が様子を見に随時訪問を行う場合があるか。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
II 過程評価(Process)									
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント									
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献									
②	多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要となる、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている <u>(※任意評価項目)</u>		4			サービス担当者会議において多職種間で包括的なサポートが出来るよう検討している。	他職種間の関わりの中で在宅生活をサポートしている。
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画									
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案									
①	介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている	7	2			サポートセンター美沢の棚にファイルにまとめられ閲覧可能になっている。	コロナ禍の中でいかに有効的な開催が出来るか情報共有したい。閲覧可能な状態で全職員が内容まで理解できると更に良い コロナ禍で施設でのファイル回覧は難しい、方法の検討が必要。
		29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている	1	8			地域の方々に定期的にサポートセンター美沢の広報誌を作成し回覧版として見て頂いている。	広報活動は地域の方々の理解を広める良いアナウンスになると思います。 広報活動により実際に相談やサービスに繋がった事はあるか？ コロナ禍ではあるが一方通行にならずに理解されているか声を拾い上げていかないと、周知は広がらないと思います。 広報誌以外の活動にも期待する。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
II 過程評価(Process)									
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画									
(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画									
①	行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している		7	2		市の事業計画は毎年ヘルパー研修において説明されている、十分理解、とは言えない。	定期的な周知の機会が必要。
②	サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている	4	5			サービス提供エリアはヘルパー美沢のエリア以外でも他の事業所が新規依頼を受ける事が難しい場合は受け入れを検討している。	受け入れに積極性を感じます。提供エリアや巡回ルートなど苦労していると思う。管理数を見ながらになると思いますが、できる限り対応してほしい。
③	安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等(保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等)が行われている <u>(※任意評価項目)</u>		4			医療連携推進会議の委員の包括支援センター主催の多職種研修へ出席した。地域の水害に関する様々な意見を聞くことができ、利用者の災害避難について参考にしてケアマネージャーと相談出来たらと思っている。	研修会への参加、インフォーマルサービスの活用の検討など地域との繋がりの方は多様なようで難しい。災害だけでなく徘徊マニュアルの作成もある。徘徊は本人、家族の問題だけでなく地域住民の安心して暮らせるまち作りにも大きく関わりがある。地域を含めて検討できると良い。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
Ⅲ 結果評価(Outcome)									
①	サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている	5	4			定期随時サービス導入してから、状態の改善により訪問介護の生活支援のみにサービスを変更したことで自立した生活の目標を達成した方もいる。サービスを漫然と提供するだけでなく、内容が状態に合っているか常にアセスメントしながら提供していくように心がけている。	今後も自立支援に向けて取り組んで欲しい。利用者が目標達成すると職員さんのやりがいや励みに繋がると思う。常にPDCAサイクルを回すことが大切。
②	在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている	6	3			昨年の満足度アンケートでは「安心感を得られる」と答えた人が88%となっていた。100%に近づくように、ご本人・ご家族共に少しでも不安が軽減し安心した生活が送れるようにしたい。	これからも利用者が安心して生活を送れるよう頑張りたい。不安な方は何が不安だったのか。「安心して生活を送れる」88%と高い数値で会い、実践の賜物だと思う。今後も努力を続けて欲しい。他にはない素晴らしいサービスだと感じている。これからも活躍して欲しい。定期随時の利用により施設に入らなくてもそれと同等の安心感ある生活の維持が出来ている。看護の利用が増すと安心感も増えるのではないかな。